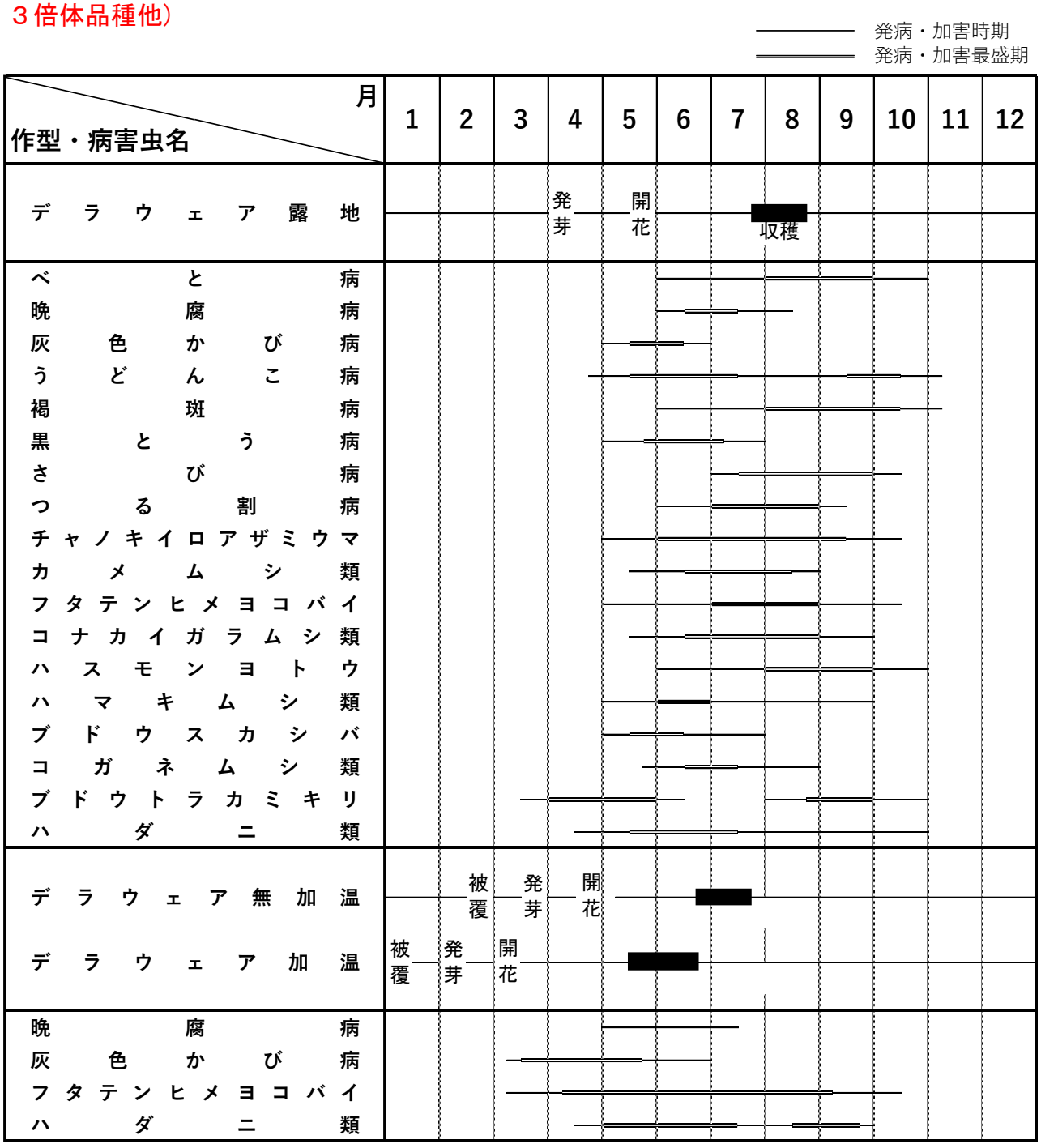
ぶどう

農薬によって小粒種と大粒種で登録内容が異なる場合がある。小粒種と大粒種の区分は下記のとおりである。

小粒種ぶどう：デラウェア、シラガブドウ、やまぶどう

大粒種ぶどう：上記以外の品種（巨峰系４倍体品種、２倍体米国系品種、２倍体欧州系品種、３倍体品種他）



注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

べと病

留意事項

1 気温20～22℃位のやや低温で雨が多いと発生しやすい。
2 り病性品種では展葉5～6枚頃からの予防散布が重要である。
3 袋かけ前の防除は、薬害、果粉溶脱、果実汚れのおそれがあるため、小豆大期前までに散布する。
4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は石灰硫黄合剤やボルドーとの混用やボルドーとの近接散布は避ける。
5 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は、かぶれに注意する。
6 府内でQoI剤耐性菌を確認している。効果が低かった園では、使用を避ける。
それ以外の園もQoI剤≪１１≫、CAA殺菌剤＜４０＞は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
7 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分マンゼブの総使用回数は2回以内。

防除方法

1 被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
2 袋かけや笠かけを行う。
3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・ICボルドー66D ＜Ｍ１＞【25～200倍　発病前～発病初期／－】
・ICボルドー48Q ＜Ｍ１＞【25～50倍　－／－】
デラウェアではICボルドー66D、巨峰系品種ではICボルドー48Qを使用する。
・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤 ＜Ｍ３＞【1000倍　45日／2回】
・クプロシールド ＜Ｍ１＞【1000倍　発病前～発病初期／－】
・ライメイフロアブル ＜２１＞【3000～4000倍　14日／3回】
4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・レーバスフロアブル ＜４０＞【2000～3000倍　7日／3回】
・ホライズンドライフロアブル ＜２７＞ ≪１１≫【2500～5000倍　21日／3回】
・エトフィンフロアブル ＜２２＞【1000倍　7日／4回】
・ジャストフィットフロアブル ＜４３＞ ＜４０＞【5000倍　30日／3回】

晩腐病

留意事項

1 新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発する。特に露地デラウェアに発病が多い。
2 笠かけや袋かけは苦腐病にも有効である。
3 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。
4 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 被害果房は、ほ場外に持ち出し処分する。
2 せん定時に次作の伝染源となる巻きつるは切り取って持ち出し処分する。
3 排水や通風を良好にする。
4 チッソ質肥料の過用を避ける。
5 笠かけや袋かけを行う。
6 発芽前(休眠期)に下記の薬剤を散布する。
・ベンレート水和剤 ＜１＞【200～500倍　休眠期／1回】
7 落弁直後に下記の薬剤を散布する。
・アフェットフロアブル ≪７≫【2000倍　7日／3回】
・オンリーワンフロアブル ＜３＞【2000倍　前日／3回】
・ファンタジスタ顆粒水和剤 ≪１１≫【3000～4000倍　14日／3回】
・スイッチ顆粒水和剤 ＜９＞ ＜１２＞【2000～3000倍　30日／2回】
・ミギワ20フロアブル ＜５２＞【2000～4000倍　前日／3回】

灰色かび病

留意事項

1 多湿状態で多発するので、第1回ジベレリン処理後から結実始めの間に、ビニールのマルチングで湿度を下げるなど耕種的防除に努める。
2 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
3 薬剤散布は朝方に行い、散布後は十分に換気して、施設内の湿度が上がらないように注意する。
4 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 施設栽培での発病が多いので、換気を良好にする。
2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。
・フルピカフロアブル ＜９＞【2000～3000倍　30日／2回】
・エコショット ＜ＢＭ２＞【1000～2000倍　前日／－】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・オンリーワンフロアブル ＜３＞【2000倍　前日／3回】
・ゲッター水和剤 ＜１＞ ＜１０＞【1000～1500倍　45日／1回】
・ファンタジスタ顆粒水和剤 ≪１１≫【3000～4000倍　14日／3回】
・スイッチ顆粒水和剤 ＜９＞ ＜１２＞【2000～3000倍　30日／2回】
・フルーツガードWDG ＜Ｍ４＞ ≪７≫【800倍　30日／3回】
4 施設内では、くん煙剤も有効である。(Ⅻ省力安全防除　1くん煙　参照)

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

うどんこ病

留意事項

1 欧州系品種に発病が多い。
2 り病性品種では発病前からの予防散布が重要である。
3 薬剤耐性菌が出現しやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
4 着色期になって使用する場合、果実が汚れる場合があるので注意する。
5 SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 通風を良好にする。
2 排水を良好にするとともに、施肥に注意して樹勢を強健にする。
3 被害部（芽しぶ）は、ほ場外へ持ち出し処分する。
4 開花前後に下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤　＜１＞【2000～3000倍　45日／3回】
・アフェットフロアブル　≪７≫【2000倍　7日／3回】
・オンリーワンフロアブル　＜３＞【2000倍　前日／3回】
・フルピカフロアブル　＜９＞【2000～3000倍　30日／2回】
・ベランティーフロアブル　＜３＞【8000倍　前日／3回】

褐斑病

留意事項

1 キャンベルアーリー、マスカットベリーＡ、ピオーネ、巨峰、デラウェアなどの品種は本病に弱い。
2 秋期落葉期まで発生し、落葉を早めるので注意する。
3 袋かけ前の防除は、薬害､果粉溶脱のおそれがあるため、小豆大期までに散布する。
4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は石灰硫黄合剤やボルドーとの混用やボルドーとの近接散布は避ける。
5 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は、かぶれに注意する。
6 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
7 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分マンゼブの総使用回数は2回以内。

防除方法

1 肥培管理に留意し、樹勢を適正にする。
2 枯枝や落葉、被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
3 発芽前（休眠期）に下記の薬剤を散布する。

・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤　＜Ｍ３＞【1000倍　45日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・オンリーワンフロアブル ＜３＞【2000倍　前日／3回】
・ホライズンドライフロアブル ＜２７＞ ≪１１≫【2500倍　21日／3回】
・ネクスターフロアブル ≪７≫【1500倍　7日／3回】

黒とう病

留意事項

1 園芸ボルドーは、高温時の散布では薬害を生じやすいので注意する。また、薬害軽減のため、炭酸カルシウム水和剤を加用する。
無袋栽培の場合は、着果期以降の散布は注意する。
2 ジベレリン処理を行う場合は、園芸ボルドーとの近接使用を避ける。
3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は石灰硫黄合剤やボルドーとの混用やボルドーとの近接散布は避ける。
4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は、かぶれに注意する。
5 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。
6 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分マンゼブの総使用回数は2回以内。

防除方法

1 徒長や遅伸びにならないよう、せん定や施肥に注意する。
2 被害葉や被害枝は、ほ場外へ持ち出し処分する。
3 病原菌の多くは結果母子や巻きつる内で越冬するので、発芽前（休眠期）に下記の薬剤を散布する。
・ベンレート水和剤 ＜１＞【200～500倍　休眠期／1回】
4 発芽～開花期までは下記の薬剤を散布する。
・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤 ＜Ｍ３＞【1000倍　45日／2回】
・ファンタジスタ顆粒水和剤 ≪１１≫【3000～4000倍　14日／3回】
・ネクスターフロアブル ≪７≫【1500倍　7日／3回】
5 5月中旬以降は下記の薬剤を散布する。
・ストロビードライフロアブル ≪１１≫【2000～3000倍　14日／3回】
・オンリーワンフロアブル ＜３＞【2000倍　前日／3回】
・ミギワ20フロアブル ＜５２＞【2000倍　前日／3回】
・園芸ボルドー ＜Ｍ１＞ ＜Ｍ２＞【500倍　－／－】

さび病

留意事項

1 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は石灰硫黄合剤やボルドーとの混用やボルドーとの近接散布は避ける。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は、かぶれに注意する。
3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分マンゼブの総使用回数は2回以内。
4 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。

防除方法
1 被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。
2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。収穫期が近い場合は収穫後に散布する。
・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤 ＜Ｍ３＞【1000倍　45日／2回】
3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・オンリーワンフロアブル ＜３＞【2000倍　前日／3回】
4 収穫後に下記の薬剤を散布する。
・ICボルドー66D ＜Ｍ１＞【50倍　発病前～発病初期／－】

つる割病

留意事項
1 被害は、欧州系品種に多い。

防除方法
1 発病枝は、ほ場外へ持ち出し処分する。
2 古づるの粗皮はぎを励行する。
3 チッソ質肥料の施用を控え、生育が軟弱徒長しないよう注意する。
4 休眠期防除を主体に下記の薬剤を散布する。
・ベンレート水和剤 ＜１＞【200～500倍　休眠期／1回】

白紋羽病

留意事項
1 樹から半径50cm～1m以内の土を取り除き、菌の付着した部分を削り取ってから、かん注すると効果的である。
2 改植や補植の際には、同じ位置に植えない。
3 フロンサイドSCはかぶれに注意する。

防除方法
1 樹勢が弱ると発病しやすいので、摘房により適正着果量とするほか、土づくりなどに努め、樹勢の維持を図る。
2 発病園では、下記の薬剤を土壌かん注または、土壌混和する。
・フロンサイドSC ＜２９＞
【1000倍　土壌かん注(100～200Ｌ／樹)　21日／1回】または
【500倍　土壌かん注(50～100Ｌ／樹)　21日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・フジワン粒剤 ＜６＞【3kg／樹　土壌混和　萌芽期／1回】

チャノキイロアザミウマ

留意事項

1 緑色系品種で果実被害が目立ちやすい。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
3 袋かけ前の防除を徹底する。

防除方法

1 満開期直後から2～3回下記の薬剤を散布する。
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【アザミウマ類　2000～4000倍　14日／3回】
・コルト顆粒水和剤 ＜９Ｂ＞【3000倍　前日／3回】
・エクシレルSE ＜２８＞【アザミウマ類　5000倍　前日／3回】
・ディアナWDG ＜５＞【アザミウマ類　5000～10000倍　前日／2回】
・グレーシアフロアブル ＜３０＞【4000倍　7日／2回】

カメムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】
・ダントツ水溶剤 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】
・テッパン液剤 ＜２８＞【2000倍　前日／2回】

フタテンヒメヨコバイ

防除方法

1 園の通風、採光を良好にする。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　14日／3回】
・エクシレルSE ＜２８＞【5000倍　前日／3回】
・アディオン水和剤 ＜３Ａ＞【2000倍　7日／5回】
・グレーシアフロアブル ＜３０＞【4000倍　7日／2回】

コナカイガラムシ類

留意事項

1 フジコナカイガラムシとクワコナカイガラムシが加害する。
2 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤の成分ジノテフランの総使用回数は3回以内（塗布は1回以内）。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

防除方法

1 粗皮削りをする。

2 下記の薬剤を塗布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞
【20～40g／樹　本剤1g当たり水1mlの割合で混合し、主幹から主枝の粗皮を環状に剥いだ部分に塗布する　幼果期まで(収穫30日)／1回】

3 発芽前に下記の薬剤を散布する。

・石灰硫黄合剤 ＜ＵＮ＞ 【落葉果樹　カイガラムシ類　7～10倍　発芽前／－】

4 幼虫発生期に下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞
【1000～2000倍　前日／3回】

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【カイガラムシ類　2000～4000倍　14日／3回】

・コルト顆粒水和剤 ＜９Ｂ＞【カイガラムシ類　3000倍　前日／3回】

・アプロードフロアブル ＜１６＞【カイガラムシ類幼虫　1000倍　30日／2回】

ハスモンヨトウ

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 早期加温栽培で3月～4月頃に被害を受けやすい。

2 施設栽培では、フェロモンディスペンサーを利用して発生を抑制することができる。

・ヨトウコン-H
【ハスモンヨトウが加害する農作物　20～200m／10a(20cmチューブの場合100～1000本)　施設(施設内上部に固定する､または枝等に巻き付ける)　成虫発生初期～終期／－】

3 卵塊が付着していたり、若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘葉し、ほ場から持ち出して処分する。

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ディアナWDG ＜５＞【5000～10000倍　前日／2回】

・エクシレルSE ＜２８＞【2500～5000倍　前日／3回】

・グレーシアフロアブル ＜３０＞【4000倍　7日／2回】

ハマキムシ類

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・サムコルフロアブル10 ＜２８＞【5000倍　前日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ディアナWDG ＜５＞【5000～10000倍　前日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ｘ果樹類の病害虫防除　果樹類　参照）

ブドウスカシバ

留意事項

1 特に樹勢旺盛な幼木・若木に被害が多い。
2 パダンSG水溶剤は眼や皮膚に刺激があるので注意する。

防除方法

1 せん定枝や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
2 開花期までに下記の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。
・フェニックスフロアブル ＜２８＞【スカシバ類　500倍　開花期／1回】
3 成虫発生期（5月中旬～6月中旬）に下記の薬剤を散布する。
・パダンSG水溶剤 劇 ＜１４＞【スカシバ類　1500倍　14日／2回】
・フェニックスフロアブル ＜２８＞【スカシバ類　4000倍　14日／2回】

アメリカシロヒトリ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・エクシレルSE ＜２８＞【ケムシ類　5000倍　前日／3回】
・テッパン液剤 ＜２８＞【ケムシ類　2000倍　前日／2回】
・フェニックスフロアブル ＜２８＞【ケムシ類　4000倍　14日／2回】
・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ｘ果樹類の病害虫防除　果樹類　参照）

クワゴマダラヒトリ

留意事項

1 成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
2 越冬は、主に5齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。
3 越冬後に幼虫が移動し、ぶどうの新梢や葉・花房を食害する。

防除方法

1 初期に新梢の生長点や花房が加害されると、特に被害が大きいので初期防除に努める。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・エクシレルSE ＜２８＞【ケムシ類　5000倍　前日／3回】
・テッパン液剤 ＜２８＞【ケムシ類　2000倍　前日／2回】
・フェニックスフロアブル ＜２８＞【ケムシ類　4000倍　14日／2回】
・オリオン水和剤40 劇 ＜１Ａ＞【ケムシ類　1000倍　45日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・ＢＴ剤 ＜１１Ａ＞（Ｘ果樹類の病害虫防除　果樹類　参照）

コガネムシ類

留意事項

1 ドウガネブイブイ、ヒメコガネ、マメコガネなどが発生する。

防除方法

1 成虫の発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【コガネムシ類成虫　2000～4000倍　14日／3回】
・ダントツ水溶剤 ＜４Ａ＞【2000～4000倍　前日／3回】
・アディオン水和剤 ＜３Ａ＞【2000～3000倍　7日／5回】

ブドウトラカミキリ

留意事項

1 成虫の発生時期は8月中旬～10月上旬である。
2 スミチオン乳剤の成分MEPの総使用回数は4回以内（収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後は2回以内）。

防除方法

1 せん定枝や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。
2 収穫後の成虫発生最盛期（8月下旬～9月下旬）に下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞【2000倍　前日／3回】
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【2000倍　収穫後秋期／3回】
・スミチオン乳剤 ＜１Ｂ＞
　【小粒種ぶどう　1000倍　90日／2回】
　【大粒種ぶどう　1000倍　21日／2回】

ハダニ類

留意事項

1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
2 乾燥を好み、施設栽培でしばしば多発する。

防除方法

1 発芽前に下記の薬剤を散布する。

・石灰硫黄合剤 ＜ＵＮ＞【落葉果樹　7～40倍　発芽前／－】

2 施設栽培では、下記のミヤコカブリダニ剤を放飼する。

・システムミヤコくん ＜－(生)＞
　【果樹類（施設栽培）　2～5パック/樹　発生直前～発生初期／－】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ダニオーテフロアブル ＜３３＞【2000倍　前日／1回】
・スターマイトフロアブル ＜２５Ａ＞【2000倍　14日／1回】
・マイトコーネフロアブル ＜２０Ｄ＞【1000～1500倍　21日／1回】
・コロマイト水和剤 ＜６＞【2000倍　7日／2回】
・ダニコングフロアブル ＜２５Ｂ＞【2000倍　前日／1回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。